

都市再生整備計画(第4回変更)

やなぎがうらえきしゅうへん ち く
JR柳ヶ浦駅周辺地区

おおいた けん うさし
大分県 宇佐市

令和5年2月

事業名	確認
都市構造再編集支援事業	☐
都市再生整備計画事業	☒
まちなかウォークアブル推進事業	☐

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	大分県	市町村名	宇佐市	地区名	JR柳ヶ浦駅周辺地区	面積	21.2 ha
計画期間	平成30年度～令和4年度	交付期間	平成30年度～令和4年度				

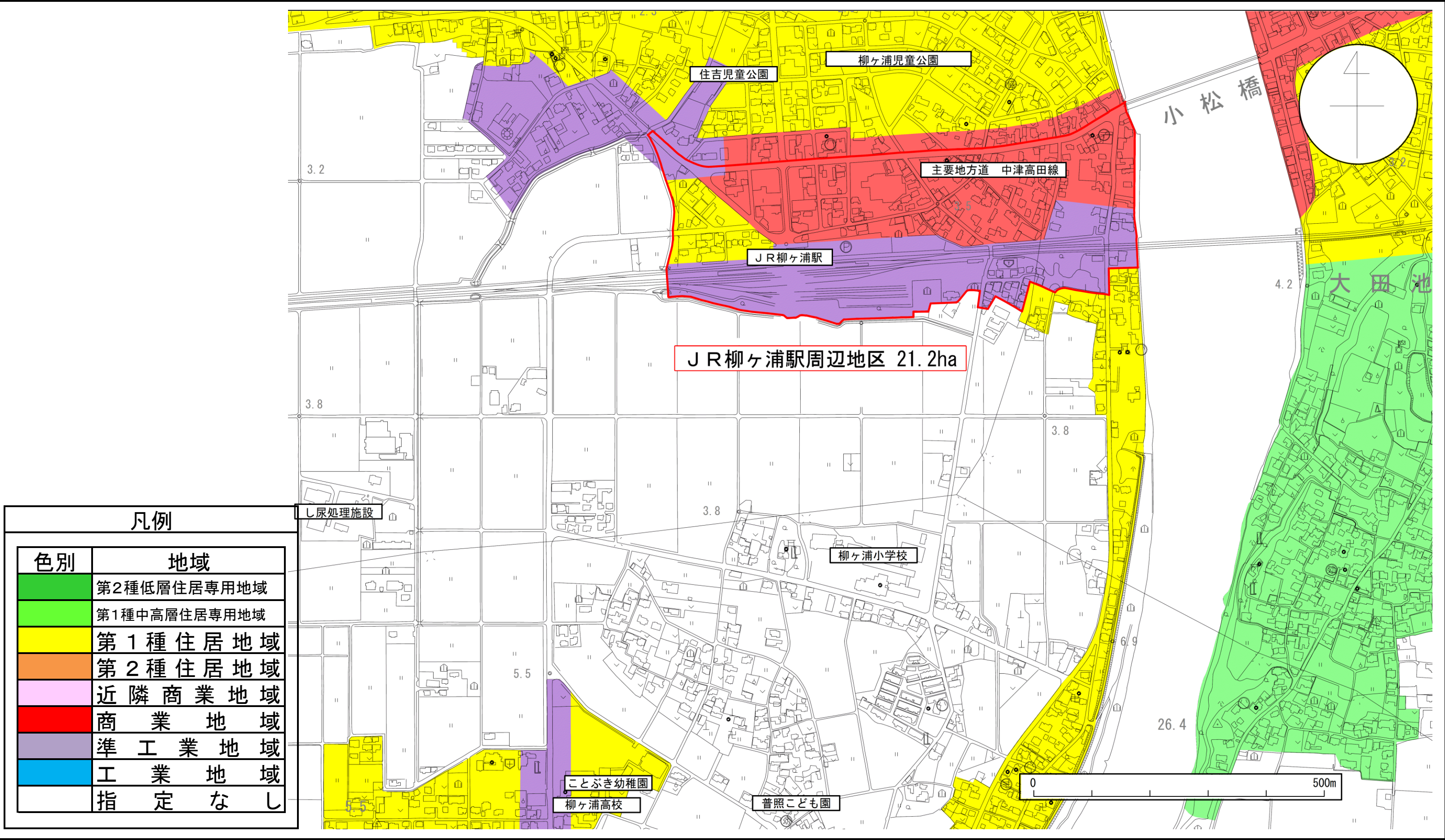
目標
大目標：北口駅前広場周辺整備により人や機能の集約を図り“安全で・心地よい交流拠点”を創出する
目標1：誰もが集える空間を創出し、駅周辺の安全性を向上する
目標2：安心してアクセスできる空間を創出し、利便性を向上する
目標3：地域に誇りを持ち、愛着心が育まれる市民活動を活性化する

目標設定の根拠
まちづくりの経緯及び現況 本地区は、宇佐市の北部に位置し、市内で最も利用者数が多い特急停車駅や宇佐海軍航空隊の遺構などを有しており、それらを活用したまちづくりが行われている。 歴史的には、本地区は、駅が開業した明治30年頃から繁栄し、昭和に入ると海軍航空隊の開隊や駅を中心とした区画整理の施行など、駅を中心としたまちづくりが進められたが、モータリゼーションの進展や高速道路網の整備等により、昭和48年に約87万人いた鉄道利用者は、平成26年には約47万人に減少するとともに、駅周辺の人口は減少し、賑わいが衰退した。 しかし、人口減少や高齢化の進行、市街地の拡散などの社会的背景の中で、持続可能なまちづくりを展開するためには、本市の玄関口であり重要な公共交通機関である柳ヶ浦駅を中心とした拠点づくりが求められるが、現況は、駅前ロータリー機能の欠如や幹線道路網が未熟であることから、駅前での交通混雑が生じているため、安全性の向上が求められている。また、市内で最も利用される公共交通機関で多くの人が行き交う場所であるものの、結節機能の欠如やコミュニティ空間の不足等により、その特性が十分に発揮されていないことから、利便性・快適性等の向上が求められている。 さらに、駅を拠点に持続可能なまちづくりを展開するためには、安全性・利便性の向上に合わせて、市民活動の活性化が求められる。 そのため、交通・歩行環境の向上やコミュニティ空間の整備等により、安全で利便性の高い交流拠点の形成を目指し、平成26年度から平成28年度にかけて、45回157名の方からヒアリングを行うことにより、市民ニーズを把握し、さらに、学識経験者や関係機関等が参画した検討会議を開催することにより、専門的な検証や関係機関との調整を行った上で、「JR柳ヶ浦駅周辺地区整備基本構想」及び「JR柳ヶ浦駅周辺地区基本計画」を策定した。
課題 ・柳ヶ浦駅が誰もが集える空間になるためには、人・自転車・自動車が安全・安心に通行でき、多様な人々が集える環境整備が必要である。そのため、駅前ロータリーの整備や歩行空間の確保等により、安全性の高い拠点の創出が求められる。 ・市内外の人が安心して利用できる玄関口となるためには、便利で心地よい空間の形成が必要である。そのため、駅舎の改修や交通結節機能の強化等により、利便性・快適性の高い拠点の創出が求められる。 ・駅周辺の賑わいを創出するためには、市民活動を活性化するとともに、市内外の人が交流できる環境整備と意識の向上が必要である。そのため、市内外の人が活動・交流できる場の整備や市民のまちづくりへの参画意識の向上等により、活動性の高い拠点の創出が求められる。
将来ビジョン(中長期) ・当地区の将来ビジョンを描いている上位計画は「第二次宇佐市総合計画 基本構想」「第二次宇佐市総合計画 前期基本計画」「宇佐市都市計画マスタープラン」「宇佐市景観計画」「宇佐市地域公共交通連携計画」の5つである。 【第二次宇佐市総合計画 基本構想】 ・事故のない安全で快適な交通社会の実現を目指すとともに、柳ヶ浦駅を玄関駅と位置付け、その特性や機能に応じて、都市施設の整備を行い、機能の集積を図る。 ・多様化するニーズに対応するため、市民団体などの新たな担い手となる団体の活動の活性化に努める。 【第二次宇佐市総合計画 前期基本計画】 ・柳ヶ浦地区については、JR柳ヶ浦駅周辺の整備等により、本市の玄関口にふさわしい拠点性の向上及び機能の充実に努める。 【宇佐市都市計画マスタープラン】 ・交通体系の整備による都市間・地域間の連携の強化や市街地(用途地域)への都市機能の集約を図ることにより、柳ヶ浦駅を核として地域の特色を活かした「北部交流拠点」を形成する。 【宇佐市景観計画】 ・柳ヶ浦駅周辺部は、宇佐市の玄関口に相応しい市街地景観を形成する。 【宇佐市地域公共交通総合連携計画】 ・柳ヶ浦駅の交通拠点としての機能向上を図り、駅を起点とした人の流れを増やす。 以上のとおり、本市は、市内に形成されている各地区の既存市街地に都市機能を集約することにより、拠点性を向上させ、住みやすい生活空間を形成する「拠点の形成」とともに、交通の面では、玄関口となる柳ヶ浦駅の交通拠点としての機能向上を図り、都市間・地域間のネットワークを強化する「連携の強化」を目指している。その様な中、既成市街地の一つであり、重要な交通結節点である柳ヶ浦駅周辺地区は、「拠点の形成」と「連携の強化」の達成に向けて重要な地区の一つであるため、柳ヶ浦駅を中心としたまちづくり目指している。

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
駅舎及び駅前広場利用者満足度	%	駅舎及び駅前広場に対して、満足・やや満足・普通と考えている人の割合	現状の駅前はロータリーが狭く機能が欠如していることから、朝夕は交通錯綜が発生し危険である上、駅舎は築50年以上経過しており、快適性が損なわれている。そのため、駅舎や駅前広場を整備することで、安全・安心・快適な空間を形成する。	21	H28	60	R4
JR柳ヶ浦駅乗降客数	人/年	JR柳ヶ浦駅で鉄道に乗車または鉄道を降車した人の数	鉄道利用者数は自動車の普及等により、長期的には減少しており、近年では増減しながら緩やかに減少している傾向である。駅舎や駅前広場を整備することにより、駅周辺の利便性・快適性の向上を図り、若干の減少傾向にあるJR柳ヶ浦駅における乗降客数(5年平均)を維持する。	465,415	H24～H28 (5か年平均)	465,400	H30～R4 (5か年平均)
駅周辺での市民活動回数	回/年	駅前広場等で実施された市民活動の回数	現状の駅前は狭いロータリーしかなく、環境空間が確保できていないことから、駅前広場が本来備えるべき交流機能が欠如しているため、賑わいを創出しづらい環境になっている。そのため、広場に市民が活動できる空間を整備することにより、地域住民等の活動の活性化を図り、賑わいを創出する。	4	H28	12	R4

計画区域の整備方針	
・整備方針1 誰もが安全に集える環境整備によって「市民とまちを結ぶ」 ○駅前広場や駐輪場の整備により、歩行者・自転車・自動車が安全に通行できる駅前空間を形成する。 ○トイレのバリアフリー化等により、誰もが安心して安全に集える駅舎空間を形成する。 ○多様な人のニーズに対応し、誰もが安全と想える空間を形成するため、多くの市民と一緒に駅前空間を検討する。	方針に合致する主要な事業 【基幹事業】(地域生活基盤施設／駅前広場整備事業) (地域生活基盤施設／駐輪場整備事業) (既存建造物活用事業／地域交流室等拠点整備事業) 【提案事業】(まちづくり活動支援事業／駅前空間検討事業)
・整備方針2 使いやすく・行きやすい柳ヶ浦駅周辺の機能の充実によって「駅と市民を結ぶ」 ○駅前広場が備えるべき多様な機能を充実することにより、利便性・快適性の高い空間を形成する。 ○市民ニーズに対応して多目的に駅舎が利用できるよう、必要な機能を検討するとともに、駅舎の改修を行い、利便性・快適性の向上を図る。 ○駐車場や駐輪場の整備により、自転車や自動車でのアクセス環境を充実する。	【基幹事業】(地域生活基盤施設／駅前広場整備事業) (地域生活基盤施設／駐車場増設事業) (地域生活基盤施設／駐輪場整備事業) (既存建造物活用事業／地域交流室等拠点整備事業) 【提案事業】(事業活用調査／駅舎空間活用検討事業)
・整備方針3 笑顔溢れる多様な活動によって「市民とまちづくりを結ぶ」 ○市民が集い・繋がり・愛着が育まれる活動を活性化する拠点を形成する。 ○市民が自主的に行うまちづくり活動を支援する。	【基幹事業】(地域生活基盤施設／駅前広場整備事業) (地域生活基盤施設／駐車場増設事業) (既存建造物活用事業／地域交流室等拠点整備事業) 【提案事業】(事業活用調査／駅舎空間活用検討事業) (事業活用調査／事業活用効果検証事業) (まちづくり活動支援事業／駅前空間検討事業) (まちづくり活動支援事業／駅前空間モノづくり事業) (まちづくり活動支援事業／駅前空間賑わい創出事業) (まちづくり活動支援事業／地域資源発掘調査)
その他	
■市民参画による事業の計画・実施 ・本都市再生整備計画の策定にあたり、地区の問題点や基本的な方針などを整理した「JR柳ヶ浦駅周辺整備基本構想」及び「JR柳ヶ浦駅周辺整備基本計画」を策定する段階で、45回、157名の方からヒアリングを行い、市民ニーズを把握するとともに、事業に対する市民参画意識の高揚を図ってきた。今後は、事業の進捗段階に応じたワークショップ等を開催することで、設計への市民意見の反映や工事段階での市民によるストリートファニチャーの制作等を行い、市民参画を促進する。 ■事業の継続的な推進体制の構築について ・各種事業を円滑・着実に進め、目標に向けて確実な効果を上げるため、学識経験者・事業者・専門家・行政等が参画した「JR柳ヶ浦駅周辺デザイン検討会議」を設置し、事業の専門的検証や進行管理、調整等を行うとともに、計画から実施まで一貫した推進体制の下で統括する。 ■事業終了後の継続的なまちづくり ・社会基盤の整備により安全・安心な駅周辺空間は形成されるものの、目標である“安全で・心地よいおもてなし空間”を創出するため、維持管理や利活用等を通して市民と行政が連携したまちづくりを継続的に推進していく。	

JR柳ヶ浦駅周辺地区(大分県宇佐市)	面積	21.2 ha	区域	宇佐市大字江須賀、住吉町、住江の一部
--------------------	----	---------	----	--------------------



JR柳ヶ浦駅周辺地区(大分県宇佐市) 整備方針概要図

目標	北口駅前広場周辺整備により人や機能の集約を図り “安全で・心地よい交流拠点”を創出する	代表的 な指標	駅舎及び駅前広場利用者満足度 (%)	21 (H26年度) → 60 (R4年度)
			JR柳ヶ浦駅乗降客数 (人/年)	465,415 (H28年度) → 465,400 (R4年度)
			駅周辺での市民活動回数 (回/年)	4 (H28年度) → 12 (R4年度)

